

訪問看護師インタビュー

インタビュー：2001年3月26日

トランスクリプト化：～2007年3月

インタビュアー 徳島大学総合科学部 榎田美雄

トランスクリプト作成協力者

石川県立看護大学 阿部智恵子

東京医療技術向上センター（仮名） 会場にて。

20時15分～21時15分

【 山川氏（仮名）のプロフィール】

- ・ 訪問看護師
- ・ 年齢27歳。
- ・ 看護学校卒業後2年半、外科病棟で勤務その後2年半を内科病棟にて勤務。
- ・ 卒護6年目にして訪問看護の道を志す。1年前に訪問看護ステーション勤務。
- ・ この研修会は、同じ職場の後輩の薦めにより受講する。
- ・ インタビュー当日は、ロールプレイ（試験）の終了後、録音の許可を得てインタビューを行った。

山川：おねがいしま：：す。

榎田：お伺いしようと思った内容も、ずっと、考えては

山川：はい。

榎田：きたんですが、あの、別にランダムに、お話を

山川：あ、そうですね。

榎田：うかがえれば、いいんですけども。

山川：あ、いいです。ハ：：イ。

榎田：日本語、字がきたなくてあれですけども。

山川：いえ、とんでもない、大丈夫です。

榎田：お年から、伺わせていただいてよろしいでしょうか

山川：27ですね：：。

榎田：お若くていらっしゃる。録音は、この、お許しいただいたということで

山川：はい。

榎田：えっと、今、あの、三条（仮名）の方でお働きだっていたと

山川：そうですね。訪問看護ステーションという、訪問看護ですね：：。で、正看護婦
ですね。

榎田：あの：：。訪問看護ステーションでですね：：。

山川：はい。

榎田：夜勤とかもありますよね：：。

山川：いえ、ないんですよ。

榎田：ないんですか

山川：それが。

檜田：あれは、昼間だけの。

山川：そうですね。一般の病院で働いている看護婦は、3交替だとか、2交替とかあるんですけども、訪問看護っていうのは、比較的あの、入院している患者さんが、ある程度状況がおち、状態が落ち着いた段階でおうちに帰りますよね。で、そのおうちに帰った状況で：：、え：：と、やっぱり、継続的な看護とか必要だっていう状況で、え：：と日中だけですね。平日、そうですね。私たちの事務所では、日曜日お休みっていうことで、ま、祝日も休みなんですけど、平日の9時から5時っていうことで、え：：と訪問をやっていますね。で、あの、その患者さんの状況に応じて、あの、ちょっと、あの、状態が変化しやすいだとか、その人の病状のレベルによって週に1回行く人も、いれば、週に3回行く人もいれば、この人は、安定しているから2週間に1回でいいわっていう

檜田：え：：。

山川：感じで、その人の状況を見ながら、訪問回数をあの、私たちの方でも、判断して、
檜田：はい。

山川：ま：：、ドクターとも、ま：：、相談したりもするんですけども、そういう風にえ：：と訪問して一日う：：ん、そうですね、4、5件だったりとか、あの、いろいろなお宅へ（ ）自転車ですけれどもね。あの、訪問して、状況観察をしてそして、そこで異常があれば、そのかかりつけの先生に相談をしてお薬を処方していただいたりとか：：、もし、心配な場合は、見に来てくださっていう感じであの、往診の先生にゆったりとかして連携をとってその在宅での患者さんを看っていくという状況ですね：：。

檜田：その、ここが、あの、電話相談の研修だっていうので、お伺いするんですけど、

山川：はい。

檜田：電話相談との関係は、どうなるんでしょうか

山川：え：：とですね。あの：：、例えば、あの、日中でも、そうなんですけれども、あの例えば、患者さんがえ：：と、そうですね、いろんな症状っておきてきますよね。1人の患者さんに。で、例えば、吐いちゃったんですけども：って、あの、ゆった時に、例えば、その、電話口で相手が、見えない状況で、あの、どういう情報収集をしていくかっていうのがすごく大切なんです。

檜田：つまり、行かない時にも、電話は、常に、受け付けているわけですね。

山川：やっ、そうですね。日中も、事務所の方に、電話が来ますし、で、あの、夜間帯、休日、祝日にも

檜田：はい。

山川：あの、やっぱり、人間、いつ変化するかも、

檜田：そうですね。え：：。

山川：わからないので、あの、みんな、受けまわっ、担当性、ローテーションで、

檜田：はい。

山川：夜間緊急時のあの、携帯電話を持っているんですね。

檜田：はい。

山川：で、その、それはもう、夜中でも、明け方でも、かかってくるんですけども、

榎田：はい。

山川：その電話対応の時に、やっぱり、自分が（　　）、病状のことわかっていないですとか、そう言うことがあるとね、あの、落ち度があると：：

榎田：え：：。

山川：看護婦責任を問われるんですよね。そういうのも、怖いんですよ。ねっ。ひどい時には、裁判とかね。もし、あの、そういう緊急時の電話を持つのは、すごく緊張するっていうか。あのね。たいしたことないので、「様子みてください。」「様子みてください」ならばいいんですけども。例えば、「様子をみてください」が、急死になっ、急死しちゃったとか

榎田：え：：、え：：、え：：。

山川：そういう場合とかあったら、本当に免許どうなるかというあの、責任感とかもあったりするので。そういう意味で、そういう電話の中で、どのような対応をしていくとかどのような情報収集をしていくかというのを今回、ここで勉強させていただければ、すごく役に立つかな：：っていうところで。

榎田：実際には、

山川：はい。

榎田：その携帯電話を持つ担当は、一週間に何回位まわってくるんでしょうか

山川：え：：。うふふ。一週間にそう：：ですね：：。え：：と。わたしたちのところでは、3人で持ち回っているので、

榎田：はい。

山川：一ヶ月、10日間くらい。30日に。

榎田：はい。

山川：間に10日持つ位ですから、10日に3回くらい。、3日に1回位。

榎田：すごい頻度高いですね。

山川：そうですね：：。これを持っているとね。なかなか：。あのそうですね。あの、うふふ。飲みにも行けなかったりとか。あはは。

榎田：それは、すごいですよ：：。う：：ん。気持ちの分のこうなんというか

山川：そ：：ですね。

榎田：落ち着かなさとか。

山川：そうですね。本当に、今、息をひきとりそうなんですっていう電話もあったりとかしてですね。

榎田：そんなの、ここかけるんじゃないくて、別の。

山川：でも、ですね。やっぱり、訪問看護というところで、あの、そうなんです。在宅で、もう、おうちで看取っていくという人もいるわけですよ：：。

榎田：はい。

山川：で、それを望む人もいますので

榎田：はい。

山川：やっぱり、そういう人にとっては、も：、家で看取っていく精神的なフォローのために。

榎田：はい。

山川：電話相談をしたりとかね、あの、今後あの、肩で呼吸をしていくとか、脈が、弱くなっていくとか、あの、だんだんね、こう、呼んでも、ね、声に反応しなくなっていくような状態とか予測されることを少しずつお話をしていって、あの、家族がこう、その人の死を受容できるような。

檜田：はい。

山川：声かけだとか、説明っていうのをしていくとか、う：ん、結構いろんなケースがあって、電話でもね：、本当に、もお：、そんなことでかけてきてっていう人もいれば、本当にそういうような死にね、直面する 家族を支えていくっていう電話だったりだとか、後は、急変っていうのがあったり、いろんなケースがあるので：、いろんなケースを今回、勉強できたらなと思って。そ：：なんです。ね：：。実際 う：：ん。やっているのですね、そういうの。ちょっと、不安でやっているよりは：：、こういうところで、勉強して自信を持ってね。そういう対応が、できればいい な：：っていうのがあったので、今回はね：：。この、勉強会に来たんですけどね。 はい。

檜田：1ヶ月に10日もあるのに、ここに来るときは、それをはずさなければ、

山川：あっ、

檜田：いけないですよ。携帯。

山川：でも、持ってきてたりもしますね。

檜田：もってきたり、あはっ、ブルブルにして。

山川：そうですね。そんなときには、バイブにして、もし鳴れば、又、出ていかなきゃいけないんですが。そ：：ですね。でも、あの：：、慣れてくれば、あのそうですね。だんだん、あははは。

檜田：はい。

山川：あのね：：。新宿くらいは、飲みに行ったりなんかできますけどね。

檜田：あ。それは、そうですね。

山川：そ：：ですね。

檜田：つまり、本当に3分、5分なら、救急車を呼んでくれっていうことですよ。

山川：そ：：ですね。そ：：ですね。そこをどう判断、緊急なのか、よくあの、講義でも言ってるんですが、緊急なのか、緊急じゃないのかっていうところで判別できれば、あのね。自分たちが、こう、判断できないと。

檜田：え：：。

山川：やっぱり、見にいかない状態になったりするじゃないですか。相手の状況が、イメージ、情報収集できなくて「あ：：、わかんない。じゃ：：、とりあえず、行きますね。」って言って、

檜田：え：：、え：：。

山川：訪問するよりは、電話口でそれが、解決できればね。

檜田：え：：。

山川：あちらさんも楽ですし、こっちもね：：。あの仕事の内容としては、軽減されるので、そういう分では、その、ここの、ナースの知識がね：：。あはは。まだまだ足りないんですが。う：：：ん。あるとないとじゃ、全然、私たちの仕事内容も、変

わってくるので、そういう面ではね：：。あったほうがいいだろうと思います。はい。

檜田：これ、もう話の中身に入っているんで、

山川：はい。

檜田：つまり、この研修に参加した経緯っていうのは、いまのお話で

山川：う：：ん。そうですね。

檜田：ただ、えっと、この研修は、4年前から、やっているのですけれども、今年いらっしやるっていうのは、昨年知ったからっていうことなんですか

山川：そ：：ですね。

檜田：それとも、都合がつかなくて

山川：え：：と。去年、そうですね：：。受付が始まる頃に、あの、この医療技術向上センター（仮名）で

檜田：はい。

山川：あの、又、別の受講をしている

檜田：え：：。

山川：職場の後輩が

檜田：はい。

山川：あの：：、教えてくれたんですね。

檜田：はい。

山川：こういうのあるのですが、どうですか っていうことで。で、ちょうど、訪問看護、私1年前に訪問看護に入ったんですね。

檜田：はい。

山川：で、じゃあ：：：、ちょっと、訪問看護じゃ、そういう電話対応っていうのが、すごく 重要になるので

檜田：え：：。

山川：じゃ：：、是非、やってみたいということで、あのね。後輩に教えてもらって、参加しました。ね：：：。

檜田：2つ、伺ってもよろしいでしょうか

山川：はい。

檜田：1年前に訪問看護に入ったっていうことは、その前は、病棟どっかへご勤務で

山川：そうですね。病棟でもう、ずっと、3交替で。

檜田：こう、科目ってありますよね。何科、何科っていうと。

山川：あ：：そうですね。詳しく言った方がいいですよ。

檜田：あの、秘密で言えない

山川：秘密でもないです。入職して、最初が、外科で

檜田：はい。

山川：2年半勤めていて、

檜田：はい。

山川：え：と。その後に内科で2年半として丸5年たちましたよね、病棟で。で、そろそろ、ちょっと、あの、方向を変えようかということですね。もともと、やりたかつ

た訪問の方に6年目にして移動したっていうこと。

榎田：訪問は、希望すれば、だいたいなれるんですか

それとも、競争が、はげしいんでしょうか

山川：イヤ：：。そんな：。え：。でも：：競争は、激しくないですね。ははは。ね：：。

あははは。そんな：：、人が：：、募集が、いっぱい、いっぱいというようなどころではないので。

榎田：でも、あの、夜勤がなくて、やりがいがあつて：：。

山川：そうですね：：。そうですね：：。

榎田：で、キャリアアップと考えてもいいわけですよ。これからを考えれば。

山川：う：：ん。そうですね。いや：：、その時に考えたんですけれど

榎田：はい。

山川：やっぱり、大学病院と

か行ってもっと、もっと、いろん病気とか

榎田：（そっちもありますね）

山川：う：：ん。大きい病院に考えたんですけれどね：う：ん。やっぱり、自分のやりたい看護を、ね：。拡大するのではなく、磨きにはいつちやっただすよね：。あはは。やりたい看護を磨いていこうかなって。ちょっと、視野が、せまくなっちゃったかな：って、いろいろ、思ったりもしたんですけれど。でも、やっぱり、やりたい看護をやっていけたらいいな：って思っ。でも、訪問看護も、やっぱり、看護婦1年目とかじゃ、なかなかできないですね：：。

榎田：そうですね。病気のこと、わからないのに、ありとあらゆるケースがあつて。

山川：そうなんですよね。ね：。あのほんとにその病気だけじゃなくてね：。家族のこととか、生活背景とかいろんなことを考えながら。ね：。あの、在宅でみていくってことなので、多少、やっぱり、経験があつた方が、訪問看護っていうのは、いいんじゃないかなって。自信がないと

榎田：はい。

山川：なかなか、患者対応だとか、ね：：。できなくなっちゃいますからね：：：。

榎田：そのことなんですけれども。

山川：はい。

榎田：今、3方でお働きになって後輩がいらっしゃるっていうこと。

山川：あつ、う：：ん。後輩は、この病棟での後輩だったんですね。

榎田：いや：：、病棟での後輩、

山川：そ：：なんです。

榎田：いや、副所長さんなのかと、

山川：えっ。

榎田：所長さんなのかと。（つまり、3人で）

山川：いや：：、一番、ペーペーですよ。この若さでこの若さって。訪問看護では、若い方の年齢ですね。

榎田：さっきの経験が、必要だつていうようなことも、あるいは、そうか。若いうちは、夜勤もあつて、技術をたくさんっていう。

山川：そうですね。この5年間で、ちょっと、頑張っ、出てきたんですけどね。うふふ。

檜田：なんだ。じゃ：：。後輩の方とは、今、別の。

山川：そうですね。後輩は、この病院別で働いていて、又、別のえ：と、この医療技術向上センター（仮名）の講義を受けていますね：。電話対応ではないものですけど。

檜田：忙しくてあれなんです、

山川：はい。

檜田：研修の感想とロールプレイへの感想を伺ってはいかがと思うんですけど。

山川：あの：：、そうですね。

檜田：30回もあって大変なんです、

山川：えっ、あっ、研修が

檜田：（え：：、全部で、と）

山川：あっ、そうですね：：。研修の感想は、でも、あの、なかなかこういう研修とかに出っていくとやっぱり、今のなんていうんでしょうかね：：。新しい看護とか

檜田：はい。

山川：医療とかってというのが

檜田：はい。

山川：見えたので：：、例えば、例えば、あははは。

檜田：（え：：と、なんでもしますよ）

山川：なんていうんでしょうね。私たちが、普段やっているような、お小水に管を入れておかれる方、いるんですよ。で、そこを、こう、やっぱり、お小水の流れが、悪くなったりすると、ゴミ、ゴミみたいな浮遊物が、結構、管の中に出てきちゃったりしてつまったりもするんですけども。結局、その、管をこう、私たちは、きれいなお水で、こう、管から、お水を入れて膀胱内を洗って、それを、こう、又、注射器で引き出してってこういう、あの膀胱洗浄っていうんですけど

檜田：はい。

山川：はい、それを当たり前のようにやっているんですけど、今は、そんなのをやらない方向になっているっていうのを。

檜田：え：：。

山川：ここでは、あ：：そ：：なんだって。あはは。

檜田：それは、感染対策とかってことですか

山川：そうですね：：。結局、それは意味のないことであってってという話になったりするんですよ。

檜田：はい、はい、はい。

山川：結局、そのあの、接続部はずしたり、つけたり、注射器をあてたり、あてな かったりというところで、感染できちゃうとか、

檜田：え：：。

山川：結局、そのゴミが、出ちゃうのは、結局、尿量が、少なくて

檜田：はい。

山川：膀胱内が、え：、あれはね：、アルカリ性にかたむくだとかなんとかっていうことで、結局、飲水を、お水をもっと、多くして

榎田：はい。

山川：膀胱の中に尿を停滞させないような、こう、きれいに、それで、流していけば、その、浮遊物が、減っていくとか

榎田：はい。

山川：例えば、お口から、経口的に

榎田：はい。

山川：何か、酸を、酸。

榎田：アルカリの酸ですね。

山川：え：、そうですね。酸を内服をさせて、膀胱の中を酸性に傾けて、浮遊物を減らしていくとか、なんかそういうところって、なかなかね、あのね：。気づかなかったところを気づかせてもらって、あの、すごく勉強にはなりましたね。

でも、実際、何を学んできたっていっちゃったら、あの、こ：：でこ：：でこうでって、口ではなかなか説明できないくらい、なんか、あ：：いっぱい、いっぱい、こうふふふ身になってるのかな：：っていうところは、あるんですけども。う：：んでも、やってきたっていうなんかね、頑張ってきたという自分の

榎田：これは、すごい。

山川：満足感、ね：、自己満じゃいけないんですけども。なんかね：、その、そうですね。そのま：：、やってよかったということですね。

榎田：いや：、その：、聞こうと思ってたのはですね。もっと、ぼく、電話のなにか、こう、知識っていうのが、教えられるかと思ったら、去る6月くらいに2、3度来たんですけども、

山川：あ：：、そうなんですか。

榎田：今のお話のようにですね、電話のことじゃなくて、新しい、医療の常識とかそういうのをたくさん講義していますよね。

山川：あ：：、そうですね：：。あ：：。

榎田：だから、それちょっと、思惑が、違っているのかな：：って思ったんですけど。でも、その方が、かえってよかったのかという話。

山川：あっ、でも、それはあります。それは：。あの、私が、知識がなかったので、与えられたのが、よかったんですが、でも、その電話の中で、あの、もお：、でも、結構、話はされてましたね：、電話の、その電話相談の中で、まず、一番、大事なものは、緊急じゃない、緊急か緊急じゃないというところをいうところでしたっけかむっていうところは、どのような情報提供ををしていったらよいかとか

榎田：はい。

山川：電話の対応のしかたっていうのもありましたね：：。

榎田先生：ただ、その訓練っていうの、最後のロ：：：ルプレーだけですよね。、途中はないですね。

山川：そうですね。

榎田：だから、ロールプレイで、突然あそこで前に出てやれって言われてできるのは、すごく日頃やってる人 だけかな：：と思って見てて、ちょっと、これ、きつい研修だな：：：と。

山川：あれは：そうですね：。普段やっていないとか。職場がね：、あの、ぜんぜん、そういう、電話相談していないような人にはきつと、きついかもしれませぬね：。

檜田：そういう方もいらっしゃるよな。だって、転職しようと思ったら、今やっていないわけですよ。例えば、訪問看護センタ：に転職しようと思って、今、病棟勤務の人だと、ほとんど電話とらないですよ。：

山川：そうですね：。でも、ま、病棟の中でしたらば、ある程度、病状がわかって、あの、患者対応、家族対応っていうのは、ある程度は、していると思うので。（ ）ある程度は、できるとは、思うんですけどね ：

檜田：はい。

山川：だから、今回、勉強になったのがね：。なんていうんでしょうね。相手が、何を言いたいのかを、こう、うまく間をおきながら、こう相手の言葉をこう反復しながら、え：、これが、こ：でこういうことですよ。って投げ返したりとかそういうことは、今まで、あまりしなかったんですよ。こういう講義を聴いてそうですね。相手が、

檜田：はい。

山川：いかに、やっぱり、不安でかけてくるっていう人が、多い。え：、今回、今回じゃなくても、不安でかけてくる人に対して、こう、かかわりかたっていうか、なんていうんでしょうね。問いかけ方っていうか、言葉の返し方 う：。ん。後はあの、迷っている人に対して、こう、相手にこう、決断させていくっていう導き方っていうか、

檜田：はい。

山川：相手に選択させていくって、今日も、先生おっしゃったけれど

檜田：え：。

山川：そういうようう：。ん、ところは、勉強になりましたね。

なんでも、なんでも看護婦さんって

檜田：え：。

山川：自分たちで「答えなきや」「答えなきや」

檜田：え：。

山川：と頑張っちゃうところがあると思うんですけども。ねっ、「こう思いますけれど、受診してみたらどうですか」って、う：ん、後は、相手に判断させるってことっていうのは、なかなか、意識してそういう会話をしていかないと、こうね。ドロドロした会話でね：。消化不良のまま、話が終わっちゃったりしちゃうケースも多いんじゃないかな：と思うと。ねっ、やっぱりいろいろ、対応の仕方は、勉強になりましたね：。結局、ロールプレイの中で、みんな、真剣にやるじゃないですか

檜田：う：。ん。真剣ですよ。頭、真っ白とか。え：。

山川：あははは。緊張して。ロールプレイ、う：ん。がやっぱり、一番勉強になるでしょうね。あはは。本当にう：ん、真剣に取り組んで、実施したことに対してみんなの意見が聞けてとか。う：。ん。一番、勉強になるのは、やっぱり、ロールプレイとみなさんゆっているように。

檜田：あの、他のお友達の方も、ロールプレイが、勉強になると。

山川：あの：、やっぱり、ここの方も、おっしゃってましたけれど、やっぱり去年受け

た方も、ロールプレイが、一番緊張はするけれども、あの、一番勉強、ためにはな
ったとおっしゃっていたのは、そのとおりでしたね。やっぱり、講義っていうのは、
こう、一方的にこう、先生がお話される。たまに、先生もね。こう、質問してきた
りふったりするんですけれども、やっぱり、受け身であるので、流れちゃう分は、
全然流れちゃうっていうところで。

榎田：それに、ここ、集まっていらっしゃるナースの方の専門の程度違うから、ちょっと、
難しいですよ。ぼく、こんな難しいこと、みんなよくついていくな：と思って聞い
ているんですけど。

山川：あ：：。

榎田：あれくらいは、当然なんですか その、ドクタ：：増田の説明とか。

山川：あははは。あ：：、でも。

榎田：（ ですよね：： ）

山川：あ：：、そうですね。ギャグも入ったりするんですけれどね。でも、

榎田：え：：。

山川：ね：：、ほんとに、そういう知識がないと、話には、ついていけないと思う。

榎田：ついていけない。

山川：私も、最初の頃はあのね。男性とかも来てたりして、この人は、どういう職種の人
なんだろうと思ったんですけれど。やっぱり、その、医学用語とかね、こう、略語
とか使う先生っていっぱいいるので。

榎田：え：：、え：：。

山川：そ：いうまったく、会社のどういう方が来ているか、私も、ちょっと、よく把握は、
していないんですが。

榎田：え：。あの、訪問看護センターだけじゃなくて、後は、病棟の方と、あとね、職の
ない方、転職を考えている方っていう。

山川：そう言う方には、きつ（と）あつ、でも、えつ、もともと、看護婦で：：。

榎田：もちろん、もちろん、看護婦です。看護婦の経歴があつて、

山川：それならば

榎田：今、ちょっとお仕事を休んでるっていう。

山川：大丈夫じゃないですかね。病棟、看護婦だったら、大体あれくらいの話はついて
いけそうな気がしました。）

榎田：あつ、じゃあ、だから、無知なんですよ：：。

山川：あつ、いや：：、そんなこともないです。あれ：：、だって、い、医学部。

榎田：あの、僕自身は、あの社会学なんです。ソシオロジスト。社会学で、医療社会学な
ので、その表面的な話は、わかりますけれども：：。

山川：うん、うん、うん、うん。

榎田：あの、切り分けていく、今日ね、上手に、おやりになった

山川：いや、いや、いや、いや、い（や）

榎田：作業とかは、やっぱり、特別な能力だと思いますね：：。

山川：う：：：ん。

榎田：あんまり、のろのろやってちゃいけないわけでもんね。

山川：そ：：ですね。

檜田：いくところまで、ぱつといかないと

山川：そ：：ですね。

檜田：何、言ってるのかわかんなくなりますから。

山川：あ：、でもね、わたし、そ：：ですね。やっぱり、もう、ちょっと、先生の説明は、もうちょっと、緊急性をもって、こうね。お話をしたほうが、よかったかなと思ったりもするんですけどね：：。ね：：、熱があがっているのは、炎症が起きているっていうことは、わかっていながらも、相手の気持ちと、こう共感しすぎちゃって。

檜田：はい、はい、はい。旅行、行きたいのにね：：。

山川：そ：：：なんですよね：：：。そういう。

檜田：箱根には、救急病院あるからいいのかなあ：：と最後、思っちゃったりしましたけれど。

山川：そうですね。行ってね。もし、何かあれば、そちらの方で、受診をっていうね、こうなんかこういうもうちょっと、考えがね。、広がれば良かったな：：と思いたけれどもね：：。

檜田：でも、食べれてないから無理ですよね：：。

山川：ま：：ね。そうなんですよね：：。あははは。

檜田：宴会、絶対あるし。

山川：そうなんですよ。絶対、発作はでてくるだろうとは、思っただけなんですけれど。やっぱり、言い方って、むづかしいですよ。あの、ここまでこう、ゆっちゃったら、相手が、こう、すごいびびっちゃうんじゃないかとか、あ：、逆に、ね：、シビアに言わないと、安易に考えられちゃうんじゃないかとか、その、言葉の使い方と、その、どこまでシビアに言うか言わないかっていうところでね：、すごく、ロールプレイやってね。勉強にはなりましたね：：。う：：ん。

檜田：いくつか、まだ、聞かなきやいけないことあるんですけど、ちょっと、急いであれなんです、SPの方っていうのもですね。私、研究対象に

山川：えっ、SPって

檜田：してんですけど、ご感想を。あつ、シュミレイティッド・ペイシャント。

檜田：あそこで電話の相手方をしてくれたボランティアの方なんです。

山川：はい、はい、はい、はい。に対してなんですか

檜田：に対しての上手だとか、その、一生懸命だとか。

山川：そうですね：。ま：、よく勉強されているんでしょうねって思いましたね。正直いって、怖かったですもの。なんていうんでしょう。私たち、看護婦っていても、広く浅くっていう部分があったりするわけですよ。あの、例えば、私は、違うんですけども、例えば私は循環器に10年間努めていたっていう看護婦さんがそういう電話相談をしたときに全然呼吸器科だとかあの

檜田：はい。

山川：神経内科だとか全然違う分野の話がきたら、すごい不安なわけであって。

檜田：え：：、え：：、え：：、

山川：そういう、ね。その、SPの人たちって、SPの人たちってある程度勉強してきて

あの：、相談するっていったって、も：、私、こっちがたじたじになったら、どうしようかっていうのが正直ありましたね：。ね。いや：、あとは、それも、不安だったのですが、あと、みなさん、こう、う：：：ん。うまいですね。やっぱり、みんな、話し方が、こう、なにかあれば、実体験に基づいてやっている：。

檜田：ケース自身は、石清水さん、あの、あそこでずっと、司会をやっている

山川：はい、はい、はい。

檜田：彼女がシナリオを全部書いて。

山川：そうですね：。

檜田：けれども、多くのボランティアの方は、医療に関して嫌なことがあったとか、うれしいことがあったとかがあって、やっているっていう風に聞いております。

山川：そ：：：なんですか。

檜田：あの、ケースが、彼女たちや彼らの実体験ではないはずですよ。シナリオです。

山川：なんか、こっちが質問しても、なんか、いかにも、こう、実体験のようなね：。返答が来て。

檜田：（ストレスとかってか）

山川：そうなんです。すごい、あっちが、つまんないようなことはあんまりなかったような気がして。こっちが、こう、つまっちゃう。看護婦の方がつまることがあったんですが、何か患者さんはこう、落ち着いてというかなんていうんでしょう。ぎこちなく、なく、あれっ、あはっ。スムーズにこう、会話をしてきたし、あとは、なんでしょうね。

檜田：え：：、え：：。

山川：スムーズに話されていたと思いますよ。SPの方は。

檜田：その、今、言った話の続きになるんですけどね。

山川：はい、はい。

檜田：その、ちょっと、こだわりのある人がいるんですよ。つまり：、

山川：う：：：ん。

檜田：医療ミスとかがあって、ここが、全部そうって言う訳じゃないんですけど、

山川：はい。

檜田：「医療が良くなって欲しい。」

山川：う：：：ん。

檜田：無料で、ボランティアをしたいっていう方が、SPの中には、時々いるんですけど。そんなのは、感じられましたか

山川：でもね：。みなさん、勉強されてね：。こう、ボランティア：でやっているっていうところはね：。普通の人じゃ：できないんだろうな：っていう感覚ではいんだけど。

檜田：（的に）それならそれでいいし、もう、サークル化しているみたいなので、特に。

山川：う：：：ん。でもね：。どういう人が、ボランティア：でこういう風にことをやっているんだろうと興味はありましたけど、あまり聞いてはいなくて。

檜田：あと、2つ聞いてもよろしいでしょうか

山川：どうぞ。はい。

樫田：すでにですね：。電話を受けることも、たくさんあるというお話なので

山川：あ：。

樫田：気をつけていらっしゃること、これは言わないようにしている、これは、いうようにしているっていうようなことをですね。

山川：う：：：ん。

樫田：どちらかっていうと、いわないように言うことに気をつけていらっしゃることを中心にもう1つ2つうかがって、その後に、最後に電話相談で困ったことや、おもしろかったことをきいて

山川：う：：：ん。

樫田：もお：、盛りだくさんでやっていこうと。

山川：そうですか：。アラ、ラララ。え：、電話相談で気をつけていること

樫田：はい。

山川：心がけていること う：ん。まず、第一声ですね。「あっもしもし」というところの、やっぱり、う：ん。第1声は、やっぱりなんていうんでしょうね：。「もしもし」ってつけんどんにならないように。

樫田：え：、あ：、は：。

山川：相手を受け入れるような声かけで：、まず、電話をとる事。日野原先生もね。夜中に電話が、なっても、絶対、寝ては電話を受けないって、こう、座ってね：。ちゃんと。やっぱりね：。人が、どんな風に話しをしているかっていうことが相手の方も、こっちの状況ってある程度、言葉でキャッチできちゃうことも、あると思うので。

樫田：はい。

山川：やっぱり。ね：。夜中かかってきても、「あっ大丈夫ですよ：」っていう風に声をかけて、

樫田：え：、え：。

山川：あっちもね。遠慮しながら、

樫田：はい。

山川：電話をしてくるわけですから、その辺は、くみ取って、「あっ起きてました」とかね。あははは。

樫田：あはは。うそでも。

山川：あはは。いいながら、あの、いいやすいような、あの、入り口を作ってあげるといふのは、心がけていますね。で、その時、やっぱり、さっきも、言ったようにパニックになっているような状況でしたらば、あの、そうですね。そうですね。こっちも、あせっちゃうと、あっちもあせっちゃうので、こう、一つづつ、こう話を聞いていくっていうか一つづつ、そうですね：、解決していけるような

樫田：はい。

山川：なるべく話をしていこうとは、思っていますけどね。話し方は、やっぱり、う：：ん。大切だと思いますね：。

樫田：はい。

山川：話し方、あの口調とか、トーンとか、後は、気をつけていること　そうですね：。
後は曖昧になるべくしないように、わからないことは、「ちょっと、わからないので、それは、先生にお尋ねください」とか曖昧にしないことですね：。後、う：ん、相手が、不安にならないような、あんまり、こう、え：、不安にならないような、なんていうんでしょうかね：、あんまり、こう、専門的な言葉をつかわないとか：、その不安については、なんでしょうね。あんまりこう物事をね：、1つのことを、「それは、死にいたることもありますよ。」ってこう安易にこう、大きなよけいな不安を与えないようにしていくこととか、そんなことですかね：。電話相談で気をつけていることとは。

樫田：あの：：。

山川：あつ、

樫田：あの：：、あとどうぞ。

山川：後は、やっぱりね。看護婦っていう資格を持っているので：：、

樫田：はい。

山川：その電話対応で判断があまくなってね：：。あの、訴訟問題とか、

樫田：はい。

山川：なんかそういうのは、ちょっと、気になっちゃうんですね。

樫田：大事ですよね：：。

山川：ね：：、だから、怖いですね。あの：、なんていうのでしょうか。その一本の電話で、う：ん。その人の、ね：、命がどう変わっていくかっていう緊急の場合の電話に対しては、あのやっぱり、安易なことは言えない。「様子みてください」ってこう、安易には言えいえないので、やはり、慎重になっちゃたりしますね：：。

樫田：保険って。お医者さんは入っていらっしゃいますよね。開業医の方たちは。

山川：はい、はい。

樫田：訪問看護センターは、これ、何立なんでしょうか

山川：えっ、なんですか　保険てなに　アハ

樫田：えっと、医療過誤保険、つまり、保険会社の民間保険に入っていらっしゃって、医療過誤で、訴えられたら、全部、保険にまわせれるはずなんです。

山川：あつ、そうなんですか。ちょっと、私そんなの、わかんないんですけど。ぜんぜん、あ：：、そうなんですか。

樫田：だから、もちろん、責任は、それとは、別に追わなければいけないけれど、お金の方は大丈夫なように、お医者さんは、しているはずなんですけれども。

山川：え：、看護婦は、どうなんでしょう。え：：。

樫田：ナースは、国公立でなら基本的に、区とか都がもってくるはずなんですけれど、これは、何立なんでしょうか　ま：、秘密なのかもしれません。

山川：え：：、私ね：：、わかんないですね。そ：：いう。えっ、何立

樫田：あの、わたくしりつとか。

山川：あ：：：。

樫田：え：：と、看護連盟立とか。

山川：あ：：、

檉田：お勤めの。
山川：お勤めの。
檉田：はい。
山川：え：：。
檉田：設置している。
山川：設置している。え： 都立でもなければ、（公立 ）でもなければえ：：、なんで
しょう あれは。あははは。なんでしょう。あれは。
檉田：医療法人立
山川：医療法人かな：：：：：。
檉田：福祉法人
山川：いや：：：：。
檉田：（医療法人 ）
山川：いえ：：：。まってください：：い。え：：。私は、そういうのぜんぜん、わかって、
檉田：はい。
山川：え：：：： 医療法人ですか：：：：。
檉田：普通は、ま：：。医療法人かと思えますけれど。
山川：そうかもしれない。あははは。ね：、ちょっと、わかんないですね：：。かくすわ
けでもなく。あはは。
檉田：都立でも区立でもなければ。たぶん。
山川：そ：ですか、医療法人 あ：、でも医療法人かな。言われてみれば。あははは。そ
んな、レベルですね。え：：、わかんないですね：：。すみません。
檉田：まとめて、保険に入っているのが、普通かな：：と思うんですけど。
山川：あ：：。（ ）でも、そうかも。あ：：：：。
檉田：いや、いいです。あの、自覚としては、あの、自分の責任として、全部引き受ける
おつもりだっというのがよくわかりましたので。
山川：あ：：、そうですね：：。
檉田：保険は、たぶん、入っていると思う。あはは。
山川：そ：：ですよね。
檉田：入ってなかったら、入った方がいいんじゃない。
山川：あははは。アドバイスをいただいて。はい。
檉田：で、その、もう、おっしゃっていらっしゃるように、つまり、他の、医療機関の批
判などが、出てくると思うんですが、そういうことは、気にしていらっしゃるでし
ょうかというのが。
山川：えっ。どういう意味ですか
檉田：えっと。
山川：他の。
檉田：他のお医者さんに、この間、歯医者さんに、かかったら、
山川：うん。うん。
檉田：その、痛いのを直してくれなくて、けずるだけなんですよ：とか（毒ついてきます
よね：：： ）

山川：えっ。どういう意味ですか つまり、患者さんからの、
檜田：患者さんから。
山川：患者さんからの、はいはい。批判などが。
檜田：もちろん、
山川：う：：ん。
檜田：あの、お勤めのところに対する批判ということもありうるかも、しれませんが
も。
山川：う：：ん。
檜田：ま、たいてい、直接には、言わなくて、別のおいしやさんの批判とかには、どうい
う対応なさっていますか
山川：あつ。対応ですか
檜田：はい。それには、うなずかないようにしているとか。
山川：あ：。う：ん。そうですね。え：とですね。あんまり、わたし、批判聞かないかも、
しれないですね：。
檜田：ホ：：、ホ：：、ホ：：、ホ：：。
山川：え：：と。なんていうか。「あ：：そうなんですか」で
檜田：え：：。
山川：流しちやいますね：。あははは。
檜田：なるほど、なるほど。
山川：う：：ん。頭にありますね：。あの、どっかの大きな病院では、こうね。やっぱり、
お金を払うのが当たり前で、どうで、こうでとかっていう話は、されたりしますね
：。
檜田：あ：：、つまり、医療費とは、別に。
山川：うん、うん、うん、うん。でも、「あ：：、そうなんですか：」って。
檜田：まっ。聞けばいいってことですね。うなづかなくても。
山川：そ：ですね。なんとも、こちらは、コメントしがたいですからね。あの：。あはは。
檜田：でも、入院とかすれば、差額ベッドという問題があるでしょうし。
山川：う：：ん、うん、うん。
檜田：ね。う：：：ん。いろいろ聞かされることありますよね：。
山川：そ：ですね。でも、なんていうんでしょう。うちは、（それはすべて）、とって
いない。うちっていうか、系列は、とってないんですけれどね：。あの、大変でし
ょうってしか言えない。その病院の方針とかね。いろいろ、あるでしょうし。う：
ん。「経済的に大変ですよね」っていうくらいで。なんとも言えないですよね：。
こちらの立場としては。あははは。
檜田：でも、もともと、すごく明るくていらっしゃるから、
山川：いや：：。
檜田：先様も、こう、話して、いるうちに、気が軽くなるんですよね：。
山川：いやっ、あはっ、そ：：んなんでないんですけれど、ま：ね：。あの、「私たちが、
ね：。こう、そんなのひどいわね：」とか「そ：いう病院ってどうなのかね：」つ
て、言っても。ね：：。別に何とも。

檜田：うちにこないですか

山川：や：、それも言えないですね：。あの：：、何も、解決できることでもないのですね：。ね：。あまり、マイナスイメージを与えないようにっていうか。ね：：。いや、他のね。利用者さんも、そう言ってましたよ：。とか、あの、その人の話に便乗するっていうか話には、便乗しないようにしていますね。

檜田：でも、きっと、耳には、入ってきますよね：：。

山川：あっても、そうですね。あまり、言わないようにしていますけれどもね。それに対するコメントとかは、ないですね。ただ、もお、傾聴する。

檜田：傾聴する。

山川：それが、いちばんですよ。あはは。たぶん。

檜田：やっぱり、傾聴で言葉は、よく出まわっているんですか 最近、出回ってますけど。

山川：え：。そ：ですね。看護婦の中では、傾聴は、もお：、当たり前ですね。やっぱり。う：ん。なんかトラブルが、あって、なんていうんでしょうね：。まず、聞くことですね。もお：。あの：、最近も、経験しましたけど：、その、やっぱり、いろんな不満であるわけですよ：。（患者さん）にしたらね：。こちらがね、何とも、思っていないような事をすっごく大きく「あの人の話し方は、何」っていう風なね：：：。

檜田：え：：。

山川：電話口で、冷たい言い方をされたとかっていうね。いう不満が、あつたりとかして、なんていうんでしょうね。ね：：、それを、ま：、わたしは、第三者だったんですけども、「それはね。でも」こう、ま：、傾聴なんですよ：：。その人はね：：。そういう風な少し、弁護しながらも、まず、その人の言い分を全部聞いてあげて、すっきりさせるっていうのが、ある程度大切なんですよ：。傾聴はね：。もお：、もお：：片隅にいつも、ある言葉ですね：：。

檜田：それって、看護婦学校で、教えられた事ですか それとも、実務の中で、傾聴が大事だっというふうに、見につけられた事なんですか

山川：う：：ん。学校でも、教わってはいたとは、思うんですが

檜田：え：：。

山川：でも、学校でも、教わりますね。でも、やっぱり、実践の中で、こう、自分が、失敗したときに、やっぱり、あ：も：ね：。どんな些細なことでも、聞き入れることが、大切なんだって。実体験でも、積み重なって来ているので、聞き上手には、なったかも、しれないですね：：。う：：ん。

檜田：やっぱり、失敗は、おありなんですか：：。

山川：ありますよ：：：。ね：：。

檜田：いや：：、明るくって。

山川：いや、いや、いや、でも、それもね：。あの、実践の中で、いろいろ、磨いてきたのかもしれないですけどね。う：：ん。ね。

檜田：予定の時間過ぎちゃったんですが。

山川：はい、はい。

檜田：最後にですね：。そのま：。とっておきの、これまでの、電話で、困った事や、面

白かったことを、ま：、今のお話でも、いいのですけれども。電話で、困ったこと失敗談ですとかね。

山川：え：：、ここでは、なくてですか

樫田：はい。ここではなくてって。この中で。

山川：あ：：、ここではなくてね。あ：：：、困った事

樫田：できれば、電話がらみでってということなんです。

山川：電話がらみで、困ったこと う：：：ん。

樫田：ま、傾聴がらみであれば、ぼくとしては、すごく助かるんですけど。つまり、電話でなくってもお話を聞くっていう態度は、一緒だと思うので：：。

山川：う：：ん。

樫田：どちらでも、失敗談でも、成功談でも。失敗したけど、うまくいったでも。

山川：え：、電話相談で、困ったこと 面白かった事 う：ん。あ：：、待ってください。

樫田：あと、電話でなくても。

山川：あつ。相談で。

樫田：はい。

山川：う：：、あ：：、え：、どういう意味ですか ちょっとまってくださいね。電話であつ、じゃない。あははは。

樫田：話の中で、勘違いして相手が、怒っちゃったとか。

山川：あ：：：。

樫田：よく聞いてくれたと、後で、感謝状が届いたとか。

山川：あ：：、な：：：るほどお：：。

樫田：家族から、お礼を言われたとか。ま：：、そう。

山川：え：つ、待ってください。私ね：：、こういうのはね。あまり、記憶にないっていうか、面白かった事って：：：

樫田：ま：：、うまくいったこととか。

山川：う：：ん。う：：：ん。

樫田：はい。

山川：うまくいった事 あ：：。ごめんなさいね。時間がなくなって。え：：と。

樫田：ごめんなさい。いえいえ。ぼくの方は、いいんですけどね：：。

山川：あつ、はい。

樫田：あの：：、★★★さん〔スタッフの名前〕が、みなさん、お仕事があつて、

山川：あ：：、そうですか。

樫田：もう、疲れ切つて、来てるのに、

山川：あ：：、そ：：ですか。

樫田：あなた方が、その、あまり、勝手なことをしちゃだめよって。

山川：あ：、そうですか。★★★さん。もお：、すてきなね：。看護婦さん。看護婦さんですよ。

樫田：看護婦さん。

山川：え：、本当に、すてきな人と思いますね：。う：ん。面白かった、うれしかったこと

山川：やっぱり、こう、自分で、例えば、電話相談で、「あの：、熱が、あがっちゃったんですけれども」ってゆったときに、いろんな熱が、考えられますよね：。
で、それを、やっぱり、なんていうか、それを「様子を見てください」って、こう対応していく中で、やっぱり、その、判断があっていたって言うときは、自信にもなるし：、「あ：：、よかった」って思うところが。私も、電話、最近持ちはじめたんですよね：。

榎田：え：、え：。

山川：あの：、電話、持ちはじめてから、1、2まだ3ヶ月。12月だから、1、2まだ、3ヶ月ですかね：。そういう緊急時の電話を対応していく中で、だから、経験的には、まだ、少ないかもしれないんですけど、自分の判断が、あっていたことが大きいと。まあ：、一般論でごめんなさい。

榎田：いえいえ。

山川：うれしいことで、困ったことは、別にまだそんなにないですかね：。まだ、経験が、そんなにないので：。う：ん。

榎田：その、まあ：、長くなってあれなんですけど、2通りあると思うんですよ：。

山川：はい、はい。

榎田：つまりね：、その判断が、大事なときと、

山川：うん、うん。

榎田：さっきから、おっしゃる中で、時々出るように、まあ：、不安があって、なんとか、なだめてあげなきゃいけないときと：。

山川：うん、うん。

榎田：で、判断は、もう、こうビシバシ下せる

山川：いや：。

榎田：ご性格のようなんですけど。

山川：いや：、全然。そんな事ないですよ：。優柔不断で有名なんで。あははは。

榎田：大変、きり分けがお上手で。

山川：そんなこともないですよね：。

榎田：不安の方が、処理が、むつかしいのかな：と思うんですけど。

山川：そ：ですね。はっきりしたこう、答えっていうのが、出せない意見でやっぱり、多いんですよ：。でも、その中でどれだけその人の不安が、ね：、90%解決できたとか、50%解決できたとかっていうのは、う：ん。こっちの力量も、ね。大きいとは思って。ねっ、そういうまだ、困ったケースもあまり、まだないですね：。

榎田：その：、人によってはですね：。毎晩かけてくるとかですね：。

山川：あ：。

榎田：そういう人は、いないんでしょうか。やっぱ、不安になるといえるように思うんですけど。

山川：え：、ありますね。やっぱり。そうですね。在宅で、ターミナルの人たちなんかをあの：、もうね、予後何カ月っていうところで、おうちで、みていく人には、やっぱり、家族って、すごく不安なんですよね。あの：、今まで、十分に病院でっていう感覚が、やっぱり、最後、おうちで過ごしたいって言う人を家族は、こう、その、

死にゆく人を正面から、受け入れるわけであって、

榎田：はい。

山川：すごく家族の人も、不安で、不安でもお：、おうちでみるなんてとんでもないって
いう状況の中で、もお：、何かひとつ、ささいなこと、まっ、こっちにしたら、そ
んな大丈夫ですよ：っていうことでも、電話をね。頻繁にかけてくる方もいたんで
ね：。あの、よく笑い話になったことも、あるんですが。あの：、う：ん。え：、
なんでしょう。それは、それを当たり前として受け入れて、ゆっくり、話は、しち
ゃっているんですが、う：ん。まあ、え：、なんていうか、それは、困ったこと、
もお：、それは、その人の心理状況を考えたら、ねっ、頻回にかけてきて、こんな
ことでかけてきてっていうのはね：。

榎田：例えば（ ）

山川：え：、例えば え：とね：。え：と。例えば あ：、私もね：。こういう記憶がね
：。なかなかね：。

榎田：たくさん、あつてあれでしょうけれど。

山川：え：とね：。些細なことで ありますね：。なんだろう：な：。う：んと。些細な
こと 些細なこと う：ん。なんていうんでしょうね。あはは、胃、たぶん、わか
るかな：。あの、え：と、胃に穴があいている人がいるんですよ。あの知ってま
すか

榎田：え：、え：。

山川：おくちから、お食事がとれない人は、胃に穴をあけて管を通して、そこから、直接、
あの：、ボトルから、チューブを通して、

榎田：はい。

山川：胃の方に注入していくんですけれども、なんですかね。その滴下の

榎田：スピードを

山川：う：ん。スピードがこう、つまっちやった、落ちないんですってというような感じで
ね：、電話があつて、

榎田：はい。

山川：それは、ちょっと「管をしごいてください」って言ったら「あっ、落ちました」 榎

田：え：。

山川：って本当に簡単、一言アドバイスで、解決しちゃうようなこととか、う：ん、なん
でしょうね。あ：、ネタがないです。あははは。

榎田：え：、え：、え：。

山川：他にね：。いや：。この辺は、あんまり、ちょっと、わかんないですね：。あの：、
思い出せないですね。いっぱい、あるんでしょうけど。

榎田：あの：、3ヶ月前からっていうのは、このセミナ：：を

山川：うん、うん、うん。

榎田：受けていらっしゃるから。あの持ってってってということですか

山川：いや：、違いますね：。あの：、この事務所の体制上というか方針というか

榎田：はい。

山川：今まで、一人で、受け持って、毎日24時間

榎田：（ を ）

山川：ず：っと持ってたんですけれど、やっぱり、その人にとって、負担大きいだろうし、

榎田：はい

山川：あの、まあ、みんなで分担していこうということで、まあ：、私もそ：ですね：。
4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 8ヶ月、9ヶ月訪問看護を経験して、患者さんのことも、把握できたろうから、わたしも、加わってということ
で、持ちだしたっていう。

榎田：患者さんは、ローテーションで、一応、その広くみるように。それとも、自分の担当って、一度、決めたら、ま：、お亡くなりになるまで。

山川：そ：ですね。私たちの事務所では、担当制なんですね。

榎田：はい。

山川：だから、自分が受け持っている何十人かの患者さんの状況は、わかるんですけども、他の人が、受け持っているような患者さんは、深くまでは、病名は、把握していないとか、あの、ど：いう家族の方がいて、ど：いう個性だっているのは、よくは把握はしていないんですけども、よく電話がかかってきやすい人たちに関しては、あの家族の対応にはこういう風に気をつけるようにだとか、こういうトラブルが、おきやすくて、よく電話がかかってくるだとか、こういうトラブルの時には、こういう対処の方法をいつもやっていると。

榎田：はい

山川：そういううち合わせは、してはいますけれどね：：。

榎田：うち合わせっていうのは、ミーティングですよ。申し送りのノートとかは、ある
んでしょうか

山川：え：とですね。申し送りノートは、ないですね。

榎田：じゃ：、もお（ でしょうね： ）。

山川：そ：ですね。はい、はい、あの：、雑談ぐらいの感じで。でも：、あの：、利用者
さんの

榎田：はい。

山川：あの、名簿、住所と

榎田：はい。

山川：電話番号と

榎田：はい。

山川：あの、いろんな病名ぐらい。

榎田：はい。

山川：書いたリストは、みんな、持つようにはしてはいますけれどね：：。

榎田：いや。本当は、あの、僕たち、その中国、四国のですね

山川：はい。

榎田：電話相談やっていると、全部郵送で調査票を送って置くって、どういう研修
をしているのかも、調べているんですが

山川：あ：、そうなんですか

檉田：そういうことも、聞きたいのですが、あの：、ここまで。え：、

山川：いい：ですよ：。

檉田：え：と。電話相談の研修って。今まで、ここ以外は

山川：あ、ないです。知らなかったですね。こういう研修が、あるっていうのはね：。

檉田：じゃ：、今、すでにおやりの方は、研修なしでおやりになっているわけですね。

山川：えっ。

檉田：あの：、3人の内、はい。

山川：そお：だと思いますね：。

檉田：というか、もお、できるっていうことですね。

山川：もお：、みんな：、ね：。あの、ベテランの看護婦さんなのでね：。

檉田：はい。

山川：あの、もう、婦長さんだとか、もう、ずっと経験のある人たちなので、そういうところはもう、全然、わかっていらっしやるって。私はね：、ペ：ペ：なので。あはは。まだ、経験も少ないので、やっぱり、勉強はしておこうと思ったぐらいで。うん。でも、みなさんは、もお：、経験もあって、主婦で、そういう研修に参加するっていうのは、けっこう労力いるんですよ。その、毎週、金曜日っていうところで、家庭持っていると、家をあけるのが、まず、むつかしいと思うんですよ。だから、私の場合はね。まだ、独身っていうこともあって、あのね：、全然、いろんな研修に行きたいと思えば、全然、動けるし、

檉田：はい。

山川：経済的にもね、（ ）かかってくるので、家庭持ってる人は、なかなか「よし、やるっ」という強い気持ちがないと、こういう研修は。そうですね。私も、その後輩に教えてもらわなければ、参加しなかったの。

檉田：じゃ：、それは、宣伝が。

山川：もう、ちょっと、宣伝とかしていけば、広がっていくし、でも、すごく大切な分野だと思いますね：。

檉田：え：。

山川：なにか、あの：、やっぱり、この講義の中でも、お話されていたのですけれども、やっぱり、病院があって、あの：、おうちにすんでいる家族の人がいて：、なんていうんでしょう。やっぱり、受診をしてもその場では聞きとれなかったことって

檉田：はい。

山川：いっぱいありますよね：。

檉田：むしろ、必ずあるっていうことですよね：。

山川：そうですね。そういうのを、解消してあげられるね。そういう中間地点みたいなものって、すごく大切だと思うし、う：ん、なんかそう言われてみれば、電話相談って重要なウエイトを占めるのかなっていうのも、講義に来てわかったことですよ：。

山川：今、すごい外来がね。何十人待ちだとか。ま：ね。患者さん来なければ、困るんでしょうけれども。何か、ね：、あの、それを受診するかしないかというところって、電話でね、そういうふう判断してあげれば、なんていうんでしょう

ね。病院の方も、まあ：、スムーズについていうか、まあ：ね。経営状態は、わかんないんですけど。

檜田：えへへ、はい。

山川：ね：。一つ、ワンクッションが、あるっていうのは、すごく家族の人ね：、あの患者さんにしても、すごくね：、医療費もね：、そんなにね：、受診しなくても、いいようなものを、受診したらね：、検査だ、なんかんやといっぱいとられちゃったりだとか：。いいもんじゃな：とと思いますけれどね。

檜田：そ：ですか。日野原さんは、まあ：、そう言うけれど。

山川：えっ、誰ですか

檜田：ここの理事長。日野原さんは、そう言う風にあの、電話だけで

山川：あ：、ほんとに、そう思いますね：。

檜田：7割、判断できるっていう。

山川：簡単に、うん、うん、うん、それで、これは、こんなに普及していないのかな：と。あっ、来てみて、わかったことですけどね：。

檜田：まっ、それは、今まで、お医者さんが、とにかく来てみろっていただいただけだからですよ。

山川：そ：ですよね：。後は、う：ん。もお：、病棟の中で働いていたら、別に、そういう外来の先のね

檜田：え：。

山川：患者さんの心理状態っていうのは、あんまり、わかんないですからね：。

檜田：そ：ですよ。検査、一週間、二週間先って待つ間、大変ですしね：。

山川：そ：ですよ。だから、私も、そういうのを、必要とを感じるか、感じないかってその杓子にも、よりますよね。もお：、訪問看護とかに出ちゃえば、やっぱり、そういう実際ね、常時24時間その人をみているわけじゃないので、ね：、電話でどの程度対応できるかっていうのが、すごくポイントになってくるから、こういうのは、絶対必要だっていう風を感じるけど、病棟の中で働いていたら、私も、たぶん、受け手ないと思いますね：、あはは。今回の研修。あはは。う：：ん。

檜田：まあ：、活用の仕方が、違いますからね：。

山川：そ：ですね。分野が、違うですからね：。そういう働き場が増えてくれば、もっと、もっとこういうね：、あの：、研修とかも、ね。定員いっぱいになってくるでしょうね。

檜田：定員割れてるみたい。でも、まあ：、続けると思いますけれど。

山川：あ：、そうですね。アピールですね：。う：ん。でも、まあ：：：ね。お金もね、かかってきますけれど。でもね。講師料とか考えたらなんていうことないし、安くないじゃないかって言う人もいたりして。

檜田：ぜ、贅沢だって思いますよ。

山川：そ：ですね。

檜田：2人ずつ呼ぶし：。

山川：う：ん、そお：思います。

檜田：え：。

山川：その、う：ん。やっぱり、友達もね：、やっぱり、あはは、看護学校とかで、講師したりすると、いくら、もらうとか、あ：いう話いただいたりすると、9万で、一年間で：、聖路加の先生で：、日野原先生で：とかっていうと、安いんじゃない：って言う人もいたりするので。ね：、もう、ちょっと、こう、広まっていけば：、ね：、募集（受けていく）と思いますよ。うふふ。

榎田：あの：、全国には、需要は、あるんですけども、東京のここでもしかやってないんです：。

山川：うん、うん、うん、うん。

榎田：そうすると、東京の人は、ね：、もう、4年目だから、行こうと思った人は、1年目、二年目、三年目で、来ちゃいますから：。

山川：そうですね。大阪とかあの辺でやったら

榎田：やったら、いいのにね：。

山川：ね：。行くんじゃないんですか：。あちらの方は、遊びも、勉強も好きでしょうし。

榎田：あ：、はいはい。

山川：積極的な感じもするので。う：ん。ね：、なかなかね、そうもいかないでしょうかね。いいと思います。すごく勉強になったので。う：ん。はい。

榎田：あのも：、これで、

山川：い：ですよ。

榎田：お話をこうとおもったことは終わりなんですけど、もし、まあ：：、最後出た話ですけど、励ましのお言葉とかですね。あれば、石清水先生に伝えるようにします。

山川：あ：。

榎田：あの、ご不満とかもあれば匿名でお伝えするようにしますし、何人かにインタビュー：しているんで。

山川：え：と。あ：、そ：なんですか。私が、すごく一度だけ講義中に腹立たしいのがあったのが、なんていうんでしょう。

榎田：（■■■＝講師の名前＝）

山川：いいえ。ある日、先生が、あ：、先生の名前は、忘れちゃったんですけども、1回あの、2時間、6時から、7時、8時で

榎田：はい。

山川：2時間やってるんですけども、あの、先生から、いただいた資料を見ても、ど：も、進みが遅いな：っていうのがあって、

榎田：え：、え：、え：。

山川：なんていうんでしょう。余計な話をいっぱい、あはっ、余計、もお：、雑談っていうかこう、膨らましていくんはいいんですけど、こう、まず、先生に2時間の中で、こうその先生は、結局、2時間というんじゃないで、3時間くらいでの枠があると勘違いされていたので。

榎田：あ：、あ：、あ：。

山川：前半部分が、全然、話が進まなくて、全然、資料も、進まなくてっていうケースが、一回あって、もお：、私、あそこで、手を挙げて「すみません。先生、あの、終わるんでしょうか」って

檜田：それで

山川：質問しようかと思ったぐらい。あの：、いらいらする講義が、あはは、あつてですね。先生には、時間配分をあの、ね：、贅沢いっちゃいけないんですけども、理解していただいて、あははは。講義されたり。でも、それ、たった、一回っていうことなんですけどね。

檜田：でも、それは：。

山川：こっちが、お金払っている分で：、あの、その講義の内容が、半分も進まなかったとかつて。半分。でも最後、ばたばたばたつと。あの：、2時間の間、1時間で、休憩に入るんですけどね。たぶん、★★★さんが、先生に「先生、あの：時間が、（ ） ございません。」つて言つて、勘違いがとけたんですけども。

檜田：え：。

山川：あの：、うふふ、最初からね、こう、時間は、きちんと、把握して、あはは。よかつたのかなつと。それが、ひとつ気になつたぐらいで。後は、ほんとに。う：ん。そ：：ですね。★★★さんも、すごい丁寧な対応の仕方であんなが安心して受講できて。う：ん。別にそれ以外は、気になることは、なかつたですね。あとはね：、もおちよつと、そ：：ですね。いろんな人に、こういう勉強、う：ん。する機会が、広まっていけばいいなと思います：。また、経済的なことはね：。高い、安い、まあ：、いろんな価値観でね。思われるけれど。まあ：、全然、9万というのは、う：ん、一年間でね：。う：ん。まあ：、安いとは、言い難いんですけどね：。あの、妥当だつていうか、う：ん、あの、金額に対して高かつたという不満は（ ） ないですね：。

檜田：あの：、組織の者ではないんですが、何か、おつき合いしているので。

山川：うん、うん、あ：そうですか。

檜田：お匿名が、守れるような形で、あの、伝えるようにはします。

山川：あ：、そうですね。はい。まあ：、いろんな。あ、はい。あはは、完璧にね、いくなんていうことは、まずないと思いますね。

檜田：また、講義をすることがあるので気をつけようと。

山川：え：：そ：：ですか。そ：：なんですか。わかりました。

檜田：本当に、子供だましで恐縮なんですけど。

山川：あつ、いいえ：。

檜田：徳島から来ておまして

山川：あつ、はいはい。

檜田：徳島つて、あの、和紙の産地なんですよ：。

山川：あ：、そうなんですけどね：。

檜田：それで。折れてないかな。和紙のレターセットと

山川：あ：、すみません。

檜田：和紙のその、何にでも使える、まあ：、包装にも使つてくださいというセットなので、子供だましで。

山川：いえ。とんでもない。有り難うございます。はい。

檜田：そこまで、お見送りさせていただきます。

山川：あ：、とんでもないです。

榎田：でも、ゆっくり。

山川：後は、いいですかね：。何か、別に。

榎田：いえ。お友達と一緒に、いつも、お帰りになられるのが、こう一人になっちゃったりとか、

山川：いいえ。

榎田：そんな事おきてません

山川：あつ。大丈夫です。あの：。そ：なんですね。でも、あのね。今日、ご飯食べて帰ろうかっていう話だったんですけど。いやっ、あはは。でも、いつでもいいっていうことなので。あはは。

榎田：それを確認しなくて。

山川：いいえ。あの：。

榎田：お約束が、ある方は悪いな：つと。いや：、前もってね。先週、言っとけば、よかったけれど、ほら、その日ある程度、自信持って出来た人でないと応じてくれないだろうから：。

山川：そ：かもしれない。そ：ですね。でも、そこらあたりが。でも、電話対応、リラックスしてするのが1番ですね。っていうか、これは、ロールプレイなので、みんな、緊張してね：。あの、ほんと、全然、自分の力のね。50%しか出せなかったって言う人が、いっぱいいると思うんで：。

榎田：出だし、失敗すると困りますよね：。

山川：う：ん。そこで、失敗すると、後、続かないし。言葉が出てこないし、浮かばないですね：。声かけていうのは。う：ん。ねっ。本当に、たまたまね。私も、ケースがああね。わかりやすいケースだったので。

榎田：いや：。あれが、わかりやすいのは。そうか、看護婦さんなら、あれが、わかりやすいケースなのか。なかなか最初っから、もお：見通しを持って。

山川：いや：。ね：。みぞおちのあたりが、ど：でこ：で、何だろうな：、胃の病気かな：、なんだろ：な心臓かな：、何だろうな。油っぽいものを食べて、痛み う：ん。胆石かなっていうっていうかね：。

榎田：なるほど。そこで。

山川：緊張していると、そ：いうつながりが、連携ができないんですよ。いかに、リラックスしてやるかが、ポイントになるかと思えますけれど。あはは。

榎田：いや：。コレステロール高いから、循環器かな：とかって思って聞いていたんで。

山川：あ：、そうなんですか。

榎田：でも、ぴったり、当てていらっしやって。

山川：あれは：、でも、病棟でやっていた経験がね。生かされたっていうだけで。

榎田：外科と内科と両方おやりだから。

山川：そ：ですね。本当に、それは、（ ですね ）

う：ん。自信がないと電話対応って難しいですね。う：ん。看護婦、二、三年目、一年目だなんて、全然。「あ：わかっ、あつ、そうですか。あの、とりあえず、病院、行った方がいいと思います」っていうような対応になっちゃうんじゃないです

かね：。判断しきれないと。そう思いますよ。きっと。

檜田：ごめんなさいね。お食事。

山川：いえ、いいんです。いいんです。いつでも思っていたので。はい。

檜田：どうも、ありがとうございました。

山川：とんでもないです：。こちらこそ、（なんて、そうそう）あ：、いただきます。

檜田：いえ：、とんでもないです。本当に、ただの和紙です。

山川：いえ：、とんでもないです。ありがとうございました。終わったから、ほっとしました。

檜田：そ：ですね。

山川：う：ん。でも、そ：ですね。あの、結局、一週間毎ってゆって、終わって、すごく、予習、復習を、絶対やろうって思ってたけれど、一度も、やらずに終わりました。なんて。

檜田：あ：。今までの講義の方を。

山川：う：ん。そう、やっぱり、日常の仕事に追われて：、一度、目標たてたんですよ。あの、この講義が終わったその日は、復習の日って。で、アンド、次回の予習とかって思ったけど、う：ん。なんだかんだってできなかつたですね：。

檜田：予習用のテキストってあるんですか

山川：やっ、ないです。

檜田：ないから、自分で。その科目、心臓病なら。

山川：予習なんて。年間のありますよね。あっ途中で。予習は、やりようが、なかつたですね。

檜田：やりようが、ないですね。

山川：とりあえず、復習だけは、しようと思ったけれど、一度も、やらずに終わって終わっちゃって。流れちゃった知識は、もったいないなって、後悔は、ありますけれどね：。

檜田：でも、ポイントのいくつかは、ね。きっと頭に入るでしょうし、あれだけ、

山川：いや

檜田：強調して言ってくれと。

山川：う：ん。

檜田：そうでもなかつた

山川：ね：、たまたまね。わかりやすいケースだったんです。ありがとうございました。

檜田：いや：、明らかに、もお：、充分、理解した上で、後は、説得という感じになつたんで。

山川：いやいや、ね：。

檜田：S P の人もね：。説得されましたって言ってましたし。

山川：あはは。難しいですよ。説得って。ね：、押しつけにならないように：、

檜田：え：。

山川：あの：、でも、その人が、必要と思えるような：、ニュアンスっていうのは、やっぱり、これは、場数を踏むのが一番だよ：ね：、なんでしようかね：、でも、ポイントがわかっているの。あの、勉強したじゃないですか。え：、こういうような

問いかけをするとか、相手に判断させようとか。

檜田：え：。

山川：そういうのを思い浮かべながら、今後もネ：、やっていきたいな：と思いますけど
ね：。

檜田：相手に判断させるっていうのは、今日の先生だけじゃなくて、他の先生も、今まで。

山川：え：、でも、やっぱり、それは、ロールプレイの場では、何度も、あの、紅林先生
とか

檜田：え：、え：。

山川：言っていましたね：。

檜田：え：、え：。

山川：あっちにね。こう、一方的に、こお：、なんででしょうか、あ：なんででしょうか。そ
：なんでしょかってゆって、質問責めにされると、こっちが、こうなんか立場が、
どんどん弱くなっちゃうっていうのを、あの：、そうするとあっちも、満
足感ていうのがないじゃないですか。

檜田：え：。

山川：なので、こう、質問責めにあわないように、こっちから、質問を問いかけて、相手
に判断をうながしていくっていうような声かけで、っていうのは、いろんなケース
で結構ポイントになるんじゃないかと思えますけれどね：。

檜田：そ：ですよね。いや：、そうでないと。電話は、終わったけれども、結局満足感も
ないし。

檜田：判断もつかない。

山川：そ：ですね。結局、あの、看護婦さんって、何なんだろう：ってね。そういう不快な
気持ちで終わられるよりは、ね：。

檜田：何か押しつけてきたけれど聞いてやるもんかって。とかね：。

山川：うふふ。え：。まあ、これからね、あの、勉強したところを生かせればいいかなと
は思いますね。

檜田：あの、今日は、来てませんけれど、私のところの大学院生に、やっぱり、徳島で、
訪問看護をやっている者がおりまして、大変関心を持って、時々は、春、こっちへ
来てたんですけれど、その、研究で、一緒に電話相談研究をやっているんで

山川：あ：、そうなんですか

檜田：だから、あの、これからは、訪問看護の世界は、電話は、ものすごく大事に。

山川：ね：。最終のケースでもね：。（搬入だとか）

檜田：病院まで30分。

山川：ね：。考えちゃいますね：。でも、あそこだったら、う：ん。やっぱり、説得させ
るには、やっぱり、私が、考えていたのは、ごめんなさいね。余談になっちゃうん
ですけれど。

檜田：いえいえ。

山川：あそこのケースでは。ね。私だったら、4、5日間、熱があつて、ね。微熱があつ
て。こう、やっぱり、たぶん、栄養がね、どのくらい、食事が、とれているかとれ
ているのかとか聞いて、もしね：、ずっと、食欲もなくて取れていないんだったら

ば、ね：、ずっと、熱も続いて、汗もかいてるって、それだけ
檜田：体力消耗
山川：体力消耗しているし：、で：、それで、今、38℃以上の熱が、出てきているって
いうことは、こうね。まあ、脱水症状っていうか。
檜田：つまり、若い人なら、40℃だと思っていいわけですよ：。
山川：そうですね：。だから、う：ん。私だったら、結構、あのね：、まあ：。（ ）
檜田：すぐに、救急車。
山川：すぐに、救急車っていうのは、難しいと思うんですけど。
檜田：言わなくても：、
山川：え：、う：ん。その辺を情報収集して、う：ん。救急車でね：。行きたい、行きた
いって言うかね：、あの：、随分、救急車じゃなくっていいんですかって言った
ので。
檜田：あれは、だから、奥さんが進めても、だんなが、「何で呼ぶんだ」って喧嘩になっ
ちゃうわけですよね。
山川：そ：ですよね。
檜田：ただ、看護婦さんが、言ってくれたっていう
山川：うん、うん、うん。
檜田：ストーリーかなって。
山川：ねっ、そりゃそうですね。だから、話をしていると、なんとなくわかりますよね。
あ：っ、この辺が、不消化かな：って。相談者の。あ：、じゃ：、この穴を埋めて
あげなきゃなって思うと、そこの部分をこう、話をしようとか。
檜田：はい。
山川：う：ん。でも、話をして、私も、そんなに、うまくはないんですけども、こう、
会話の中で「あっ、ここでちょっと、こころにつかえているな：」ってというのが、
なんとなくわかってくると、その部分にウエイトをおいて、こう、話をこめるよう
にしますかね：。するようになっていくんでしょうね：。（なんて ）
檜田：時間がかかっても、かかんなくても、それが、
山川：ポイントだと思いますね。
檜田：できなければ、だめですね。
山川：そうですね：。う：ん、さっきのケ：スだったら、救急車と、救急車でないと。
でも、呼ぶんだったら、ど：だこ：だってその根拠っていうかね：。難しいとは、
思んですけどね：。そういうポイントをつかんで話をしていこうと思いました。あ
はは。
檜田：むこうが、もう言っているから、もう、（搬入 ）の可能性はあるって言えば、い
いのかな：っと。
山川：こっちの話し方とか、押しの弱さで、相手は、ま：、なんていうんですか。逆に判
断、迷っちゃったり、なんていうんでしょうかね：、結局。
檜田：次に頼るところ、なくなっちゃいますよね：。電話で、こう、好きにしたらって言
われちゃったら。
山川：そうですね：。それは、難しいですよね：。ある程度。（ ）とか言ってあ

げないといけないんでしょうね：。

榎田：僕、実は、ここの研究やる前には：、119番の研究っていうのをしている、

山川：へ：。

榎田：同じような電話かかってくるんですよ。119番にも。

山川：あっ、こわ：い。

榎田：ど：したらいいんでしょう。えへへ

山川：緊急性ありますよね：。119番って。

榎田：判断して、出るしかないですよ。もう、119番かかって、断わったら、責任ですから。全部。

山川：こわ：い：。119番。でも、今回、もうちょっと、緊急度の高いケースが、
もちょっと、出るのかな：と置いていたんですけど、比較的、ゆっくり、こう、
相談して、不安解決していくようなケ：スが、結構、多かったのかな：。

榎田：電話相談自身は、あの、緊急度の、あまり、高くないすそ野が、いっぱい、あるんだってということだと思いますよ。

山川：まっ、そうですね。

榎田：ここでは、あまり、扱っていないけれど、もっと、メンタルな問題とか、ここは、あの、普通の電話相談よりは、緊急度の比較的高いケースを多めに扱っている電話相談だと思います。講習自体。

山川：ですよ。結構、ポピュラ：な。ね：。あの、よくありそうな、ケースだったので。わかりやすかった。でも、精神科疾患の方からね。こう、うつうつ、電話相談が、ね：、もし、そういうケースだったら、どお：しようかとかね：。

榎田：とか、いたずらとか。

山川：ね：。いろんなね：。

榎田：電話は、いっぱい、いろんな事、起きますから。

山川：それは、なかったのね：。よかったんですけどね：。ね：。打ち明ければ、私もね：。あの訪問看護しててね：。もお：、目の前で、みるみるこう、チアノーゼが出てきちゃったりとかして

榎田：え：、え：。

山川：はあ：。もお：。血の気が、引くようなケースを見たりしたりとかして。
もお：救急車に、電話したりしましたけれどね。119番。もお：。あん：、あれ出る方も、かなりのストレスっていうか、プレッシャーあるでしょうねええ：。

榎田：道、一本間違えるだけで、死にますからね：。行く時の。

山川：本当ですよ。本当にあれは、もお：、119番電話対応している人、すばらしいって思いました。私。あはは。

榎田：ところがね、繰り返し。同じ事を聞くんですよ。つまり、だれが：、その、患者かって。やっぱり、取り違えたりするんですよ。言って、倒れてる人、複数人いたりして。

山川：う：ん。

榎田：とか、あの、違う人を収容してしまったりするんで、ちょっと、しつこいぐらい聞くんですよ。名前とか、その性別とか。それで、怒り出す人とか。

山川：そうですね。「もおお：、そんな場合じゃないっ」っていう
檜田：「とにかく来いっ」って。「とにかく来いっていても 行けないんだって」のを
聞きますけど。
山川：「もおお：、すぐ来てください：っ」って言いましたね：。もお：おおお。
檜田：そう言われても、行けない。火事は年中そうなんですけれど、「とにかく来たらわ
かる」とか言われて。
山川：あ：、でも、そうですね。あの：、今日も、（所長 ）と話しをして、どうだこう
だよりもね：。すぐ来て欲しいんですよね：。あの時は：。
檜田：いや、いや、それは：。でも、今は、みんな、GBSっていうのを積んでいて、途
中で、全部、ファックスを積んでるんですよ：。
山川：あ：、そうなんですか。
檜田：救急車が。だから、実は、ほんとは、出動しながら、
山川：なるほど。
檜田：その途中で、あの、ファックスもらっていけるんですけども：。こんなところで、
救急の話ができて嬉しかったです。
山川：いいえ：。とんでもないです。いろんな分野があるんですね：。
檜田：ずっと、119番と電話相談っていう感じで。そのうち、病棟の方も、もっとやっ
てみようと思っていますが。
山川：そ：ですね。いっぱい、課題はたくさんあるでしょうね：。してみるとね：。なか
なかね：。そういうものが、見えるなくなっちゃうんでしょ：ね。うふふ。
檜田：どうも、すみませんでした。ごめんなさいね。せっかくのお食事。
山川：い：え：。大丈夫です。
檜田：（ ）
山川：いいえ、とんでもないです。いえいえいえ。あの、この、やっぱり、こういう交流
でね：。すこし。
檜田：お友達だったんですか
山川：そうです。そうです。あの、ここで、知り合って、いろいろね。もお、終わりだか
らね：。
檜田：来週くらいかな：って思いますけどね：。来週、4人揃わなさそうですね：。
みんな、恐ろしいから。
山川：ね：。結構、これ緊張しますよ：。
檜田：自分が、当たると思うと。
山川：だって、出て来たくなくっ、私だって、あの、それは、あると思いますよ：。ね：
こういう仕事をしている人でも、ま、あの：、今日、やあ：、やだなあ：、休ん
じゃおうかなって思っちゃったりするくらいですよ：。や：、自分の無知をさらけ
だ出す。
檜田：とても、できそうにないと思うと。
山川：やっぱり、参加できないと思いますよ：。勇気がなければ。
檜田：（ ）ですものね。 ）
山川：減りましたよ：。きっと。だから、そういう理由も、あるんじゃないですか。

檜田：話は、ここまで聞いたから、ま、いいよと。

山川：勇気がなけりゃできないですよ：。なかなか。すごく勉強になることは、わかっ
ていても。（ ）

檜田：じゃ、クラス分けして少人数でやってあげたりしたら、最後、もうすこし出てくる
んですかね：。

山川：あ：。クラス分けが、また、難しくなるかもしれませんね：。どういうふうに、
自分を（ ）

檜田：ばれちゃう。

山川：あはは。そうですね。そういう配慮も、（あっても ）。

檜田：途中、1回も練習していないからね：。最後、差があるのは、当たり前だと思いま
すけれどね：。

山川：最後は、出づらいですよ。うふふ。

檜田：もつとも。もつとも。

山川：いや、いや、（ ） じゃないんですけれどね ）一か八かという感じですよね：
最後、減るのは、そのせいだと思います。

山川：今日ね：。あはは。ね：、工作中、今日遅れたら：、今日やらなくてすむのかな：
って：思ったりとかして、迷ってたりしていたんですよ：。でも、ひとつ、あの、

檜田：（実質、あの、仕事が、あの、終わっちゃう ）

山川：仕事が、終わんなかったので。（今日すると、思わなかったですよ ）

檜田：最初にエントリ：しないと。

山川：最初に、こういうメンバ：に呼ばれて：。そ：ですよ。

檜田：じゃ：、今日も、あぶないところだったんですね。本当は、4名うまっていたら。

山川：うん。そ：ですよ。あ：、じゃ：、も：いいかっていう感じで来たんですけれど。
それぐらい。

（以上）

医学教育のエスノメソドロジー —医療面接実習と OSCE の相互行為的基礎—

(平成15年度～平成17年度科学研究費補助金(基盤研究(B))研究成果報告書)

課題番号：15330100

発行日：平成19年3月16日

編集発行：榎田美雄

〒770-8502 徳島市南常三島町1丁目1番地

(088) 656-9308 E-mail:Kashida@ias.tokushima-u.ac.jp

<http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/social/>
